

学界情報

24th Annual Applied Power Electronics Conference and Exposition February 15-19, 2009, Washington, DC

2009年2月15日から19日までの5日間、APEC2009 (24th Annual Applied Power Electronics Conference and Exposition)が米国ワシントンDCにて開催された。筆者は今回初めてAPECで研究発表する機会を頂いた。

ワシントンDCは米国の首都であり、政治の中心地といったイメージであるが、ホワイトハウスや国会議事堂以外にもスミソニアン協会の博物館をはじめ、アメリカの歴史を記録した数多くの記念館が存在し、米国国内から多くの観光客が集まる都市とのことである。会議初日は晴天で関東地方と同じくらいの気温であったが、それ以外は寒い日が続き、18日の朝には降雪がみられた。

今回の一般発表件数は338件であり、Technical Sessions (口頭発表)は216件、Dialogue Sessions (ポスター発表)は122件の構成であった。アブストラクトの応募数および、採択率に関する報告はなかったが、例年の採択率は約50%とのことである。一般発表の他に、Special Presentation Sessionsが31件、Rap Sessionsが3件、Exhibitor Seminarsが30件行われた。

初日と2日目の午前にProfessional Education Seminarsが設定されており、Control, Design, Integration, Issues & Trends, Motion Control, Topologyの6つのテーマから構成され、各テーマについて3件のセミナーが行われた。2日目の午後は、Opening Plenary Sessionが開催され、6件の発表があった。

3日目の午前からTechnical SessionsとSpecial Sessionsが開始された。7つのTechnical Sessionsと1つのSpecial Presentation Sessionsがパラレルに進められるため、筆者を含め、発表会場を歩き来する聴衆が数多くいた。筆者はSiCおよび、GaNパワーデバイス関連の発表を中心に聴いた。どの発表も大変盛況であり、パワーエレクトロニクス技術者のSiCおよび、GaNパワーデバイスへの注目の高さを感じた。また、一部のデバイスは市販開始のアナウンスもあり、こちらも聴衆へ大きなインパクトを与えていた。

APECは研究発表に加えて比較的規模の大きい企業展示会が開催されることが特徴である。今回、約150社からの展示があった。半導体デバイス、冷却関連部品、磁性体部品、キャパシタ、計測器、シミュレーションソフトなど、パワーエレクトロニクスに関するほぼ全ての領域に渡る充実した内容の展示会であった。

4日目の夕方はバンケットが開催された。ビュッフェスタイルでメキシコ料理が提供された。開会の挨拶などはなく、自由に料理を食べ始め、いつの間にか終了していたというとても自由な雰囲気であった。途中、地元の歌手グル

ープから、最近の米国の世界的ニュース(大統領選挙関連、など)をパロディーにした替え歌のショーがあり、会場は大変盛り上がりしていた。

5日目の最終日にはDialogue Sessionsが行われた。

APECは米国にて開催ということで米国からの参加者が多いようであるが、米国への留学生を含む中国系学生の参加者の割合が多いことが特に目立っていた(女性は1割ほど)。彼らはとても活発であり、中国語が各所から聞こえてきたのが印象的であった。

来年のAPECは、カリフォルニア州、Palm Springsにて2月21日から25日までの期間で開催される予定である。



Plenary sessionの様子



Exhibitionの様子

高尾 和人 (株)東芝
(平成21年3月13日受付)